

第14章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した福島県立図書館『学びの環境づくり』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに「図書館の図書館」として市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成19年度には『学びの環境づくり』を実現するために、重点的に取り組むべき施策として、5つの柱を中心に『県民を支える図書館 アクションプラン』(平成20年度～24年度)を策定した。本プランは、実行期間を概ね5年間とし、年度ごとに事業評価を行い、必要に応じて改訂を行うものである。

また、平成21年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画(2次)」(平成22年度～26年度)に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『県民を支える図書館 アクションプラン』5つの柱

(1) 「図書館の図書館」として図書館振興を図ります

- ・市町村立図書館支援
- ・図書館未設置町村支援
- ・学校図書館支援
- ・高等教育機関図書館・類縁機関との連携
- ・情報・物流ネットワークの整備

(2) 県民のくらしのお役に立ちます

- ・県民のくらしに役立つ情報提供
- ・地域や世代による情報格差の解消
- ・多様なメディア活用による情報提供
- ・情報提供環境の整備

(3) 働く人のお役に立ちます

- ・働く人に役立つ情報提供
- ・これから働く人への情報提供
- ・各種団体・企業への情報支援
- ・行政機関への情報支援

(4) 地域と文化を育むお手伝いをします

- ・文化事業の開催
- ・読書普及活動
- ・地域資料の収集・提供及びデジタル化
- ・ボランティアとの連携
- ・デジタルライブラリーの整備

(5) 学ぶすべての人を応援します

- ・児童サービス
- ・ヤングアダルトサービス
- ・一般成人サービス
- ・障がい者サービス
- ・多文化サービス
- ・来館できない人のためのサービス

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成21年10月21日～平成23年10月20日]

区分	氏名	所属団体等(主な役職名等)
学識経験者	中田スウラ	福島大学人間発達文化学類長
	二宮和比古	郡山女子大学短期大学部教授
	鞍田炎	株福島民報社
	加藤卓哉	福島民友新聞(株)
	原孝江	公募(主婦、福島土と命を守る会代表)
	白川明美	公募(主婦、福島ゾンタクラブ理事)
家庭教育	伊藤美千代	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
社会教育	佐久間典子	福島県公共図書館協会(郡山市富久山図書館長)
学校教育関係	星浩次	福島県高等学校長協会(福島県立福島南高等学校長)
	川崎康宏	福島県中学校長会(福島市立福島第三中学校長)

(会長) 中田スウラ (副会長) 星 浩次

(2) 会議

第1回 平成22年12月9日 於：県立図書館

(議題等)

- ・平成21年度・22年度4月～10月分利用実績について
- ・「県民を支える図書館」アクションプラン事業進捗状況について
- ・資料宅配サービスについて
- ・「国民読書年記念事業」実績報告について

第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「県民を支える図書館アクションプラン」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために多様な分野の基本資料の収集と迅速な整理に努めた。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。年鑑白書等の継続資料を見直すとともに、調査相談に対応する各種参考書の充実を図った。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料と福島県人著作の網羅的収集を基本方針に、非売品等の資料については個人・団体・機関等からの寄贈により収集を行った。

平成22年度の重点収集として、地域の歴史や文化に関する資料、企業や経済活動に関する資料、県や市町村発行の行政資料等の収集に努めた。

(3) 地域視聴覚資料の収集

全国トップレベルの実力を誇る合唱・吹奏楽の全国大会入賞CDや伝統芸能、民話、地元新聞のCD-ROMなど視聴覚資料として保存価値の高いものを収集した。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

こどものへや(市町村のモデル児童室)の資料として、乳幼児から中学生ぐらいまでを対象とした資料を収集した。また、市町村から要求される資料の充実と保存図書館としての機能強化を図った。

イ 研究資料

児童図書研究室の資料として、児童図書に関する研究資料、児童の読書や児童サービスに関する資料をはじめ、受賞図書、比べ読み絵本、バリアフリー絵本などの研究用児童資料まで収集した。また、子どもの読書活動推進のために読み聞かせ用大型紙芝居・ビッグブック等資料の整備・充実を図った。

ウ その他、児童用の新聞や雑誌や児童図書研究用の雑誌についても、前年に引き続き収集した。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

新聞については従来から継続している全国紙と地元紙、業界紙の継続を維持するために、県議会図書室と連携をはかった。また、本年(平成22年度)緊急雇用創出基金事業「新聞電子化作業」により『福島民報』『福島民友』の地方版(昭和20年代以降)、及び『福島民友』(昭和50・51年)

の2年分のデジタル化が実現した。

雑誌については資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を継続収集した。

(6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位:種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	23	57	80
雑誌	269	755	1,024
官報等	3	0	3
合計	295	812	1,107

資料受入状況 (単位:冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	2,076	3,253	5,329
地域・行政資料	447	3,793	4,240
児童図書	980	272	1,252
児童図書研究書	344	103	447
市町村支援資料	0	2,448	2,448
合計	3,847	9,869	13,716

資料受入状況・推移 (単位:冊)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
28,348	40,766	13,716

分類(区分)		21年度累計	22年度増加	22年度除籍	利用替え	22年度累計
一般資料	0 総記	29,775	296	22	3	30,052
	1 哲学	23,608	208	41	0	23,775
	2 歴史	57,397	1,059	64	-3	58,389
	3 社会科学	92,482	1,311	82	1	93,712
	4 自然科学	32,326	308	54	0	32,580
	5 工学・工業	30,735	397	54	-1	31,077
	6 産業	25,286	281	30	0	25,537
	7 芸術	35,269	398	59	0	35,608
	8 語学	8,399	262	8	0	8,653
	9 文学	86,592	809	97	0	87,304
計		421,869	5,329	511	0	426,687
地域資料	0 総記	12,688	344	3	1	13,030
	1 哲学	2,260	79	2	0	2,337
	2 歴史	29,593	924	3	0	30,514
	3 社会科学	49,659	1,235	9	0	50,885
	4 自然科学	6,934	199	0	0	7,133
	5 工学・工業	9,345	224	1	0	9,568
	6 産業	17,590	415	1	0	18,004
	7 芸術	11,819	297	3	0	12,113
	8 語学	727	10	1	0	736
	9 文学	21,189	513	4	0	21,698
計		161,804	4,240	27	1	166,018
児童資料	研究資料	31,913	447	15	0	32,345
	児童図書	92,863	1,252	85	-11	94,019
	計	124,776	1,699	100	-11	126,364
逐次刊行物資料	雑誌	125,974	4,728	36	-1	130,665
	新聞合本	13,823	231	0	0	14,054
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	143,620	4,959	36	-1	148,542
特殊文庫		61,753	0	0	0	61,753
館内用計		913,822	16,227	674	-11	929,364
市町村支援計		71,090	2,448	1,586	11	71,963
合計		984,912	18,675	2,260	0	1,001,327

※本年発行分から「逐次刊行物資料」(3区分)のデータ
を加えました。

第3節 館内奉仕

入館者は232,133人、開館日は269日、1日平均863人の利用があった。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、3月12日より休館した。

入館者数

開館日数	269日
入館者数	232,133人
(1日平均)	863人

入館者数・推移

(単位：人)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
235,007	237,729	232,133

1 調査相談（レファレンス）

県内外から、口頭・電話・文書・FAX・Eメール等により調査相談を受けています。インターネットの普及により簡易な調査が減少し、多様かつ専門的な調査が寄せられるようになってきた。調査相談件数は、平成20年度末行ったカウンターブンディングにより一時落ち込んでいたがやや上向きに回復しつつあるようだ。

調査相談件数			
	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	8,907	1,554	10,461
電話	1,740	143	1,883
文書	28	0	28
FAX	49	1	50
電子メール	169	0	169
合計	10,893	1,698	12,591

調査相談件数・推移		
平成20年度	平成21年度	平成22年度
13,478	11,106	12,591

ホームページアクセス件数			
区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
トップページ	169,714	142,697	171,916
蔵書検索	96,994	103,732	174,859
横断検索	43,591	72,138	113,701
デジタルライブラリー	4,404	4,756	5,055
こどものへや	3,453	3,338	3,885
県内図書館(業務用)	22,980	21,631	19,318

2 館内サービス

「県民を支える図書館アクションプラン」を踏まえ、暮らしに役立つ情報の提供や各種講座を開催し、図書館資料の提供に努めた。時事コーナーでは、「近代文学に親しむ」「エジプトまるかじり！本で旅する2週間」「明治という時代」など展示や話題性に富んだ5つのテーマで資料を紹介した。加えて「茶の湯を楽しむ」「森と人のつながりをたどる」など社会教育施設の展示等と連携した資料やタイムリーな話題など31テーマのミニ展示を行い利用促進に努めた。

蔵書端末機の使い方や参考図書の使い方の講座を開催し図書館利用の啓発を図った。さらに、開催された各種講座等に合わせてパスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、有効的な情報の提供に努めた。

3 館外個人貸出

館外個人貸出冊数は187,663冊、登録者は17,865人、館外貸出利用者数は延べ50,457人であった。貸出冊数・延べ人とも増加し、震災後の休館期間を考慮しても前年度を上回っている。分野別に見ると児童資料が約4割、文学が1割強を占め前年度と変わらないが全体的に増加した。

6月より相双・会津2地区で資料宅配サービス(有料)を開始、併せて郵送による利用登録申請を可能にし、距離や時間の都合等で当館を利用にくかった利用者の拡大を図った。

館外個人貸出状況

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	2,331	1.2	語学	1,925	1.0
哲学・宗教	5,976	3.2	文学	25,305	13.5
歴史・地理	9,470	5.0	地域資料	7,601	4.1
社会科学	15,872	8.5	雑誌	10,137	5.4
自然科学	9,791	5.2	小計	113,279	60.4
工学・工業	9,152	4.9	児童	74,384	39.6
産業	5,569	3.0	合計	187,663	100.0
芸術	10,150	5.4			

館外個人貸出状況・推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
冊数	176,424	186,868	187,663
のべ人数	38,772	45,341	50,457

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)

(単位:人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	合計
新規	3,616	4,173	4,171	11,960
更新者	2,259	1,815	1,831	5,905
合計	5,875	5,988	6,002	17,865

館外個人貸出登録者数・推移

(単位:人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
17,950	17,803	17,865	

4 特別貸出

類縁機関での展示等の貸出を行う制度であり、対象者・資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	5	8
図書館その他	6	861
会社・事業所	6	169
報道関係	3	4
学校	1	24
計	21	1,066

特別貸出状況・推移

(単位:冊)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
271	261	1,066	

5 地域資料

調査相談は県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な問い合わせが寄せられ、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう地道な資料の調査に取り組んだ。

『天地明察』にて吉川英治文学新人賞、2010年本屋大賞を受賞した福島県ゆかりの作家・冲方丁氏の作品を紹介する「冲方丁の世界」、「ふくしまを知る子どもの本」などミニ展示を4テーマ開催し地域資料の紹介と利用促進に努めた。

6 逐次刊行物

ビジネス支援や利用者の多角的ニーズに応えるべく、昨年度に続き『ビジネス支援通信』『新聞でみる県内の図書館と読書活動』を発行した。また今年度も『現行購入雑誌保存年限および保存指定館・現行受入新聞一覧』をまとめ、県内公立図書館間の分担収集の徹底を図った。

雑誌・新聞記事の調査は、インターネット及びオンラインデータベースにより迅速かつ正確な調査が可能となってきた。平成22年度より「官報情報検索サービス」の利用ができるようになった。

7 児童サービス

子どもの読書活動を推進するために以下の活動を行った。

- (1) こどものへやは、資料の貸出・調査相談をはじめ、推奨する資料の展示・紹介をした。乳幼児と保護者のための「ちいさなおはなしかい」や児童のための「おはなしかい」を定期的に開催し、絵本を通した親子のふれあいや本の楽しさを知らせる機会を提供した。夏休みには、県立美術館と連携して美術をテーマにした「アートなおはなしかい」を開催し、美術に触れる楽しさや美術書に親しむ機会を提供とともに双方施設の利用活性化を図ることができた。また、図書館見学等で訪れる子どもたちには、施設見学や利用案内、読書への動機づけとして読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会を提供した。さらに、思春期の子どもたちのためには読書案内誌『LITTLE BIG』を発行し読書普及に努めた。
- (2) 児童図書研究室では児童サービス関係者や児童図書研究者への資料の貸出・調査相談を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動に関する人たちに対して積極的な情報提供を行い、活動の支援に努めた。さらに、『児童図書研究室ニュース』を発行し、県内外の児童サービス関連情報を提供した。

8 複写サービス

昨年度と同じような利用傾向である。インターネットの普及により多方面から情報が引き出せるようになったことが、当館の複写サービスにも影響していると考えられる。

複写利用状況

区分	件 数	枚 数
自館処理	5,847	73,138

複写利用状況・推移

(単位: 枚)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
67,860	75,211	73,138

9 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやはに2台設置し、情報提供への便宜を図っている。数台だが機器の更新を行い、当館職員による「はじめてのインターネット講座」を実施等により利用が促進された。しかし利用のマナーが問題にもなっている。

インターネット利用状況

区分	件 数
一 般	8,824
児 童	325
合 計	9,149

インターネット利用状況・推移

(単位: 人)

平成20年度	平成21年度	平成22年度
9,149	10,278	9,149

10 展 示

(1) 展示コーナー

ア 「“晴れ着”を着せた日本の近代文学～ブックカバーとのコラボレーション～」（4月2日～6月30日）

明治初期から昭和期（戦前）の各時代に活躍した作家たちの名作・名著を刊行時の姿で再現した「初版本の復刻」と、郡山市在住の橋本佳園子氏が製作したブックカバーの展示を企画。併せて、ギャラリートーク「文学を着物地で表現する」ワークショップ「オリジナルブックカバーをつくろう」を開催した。

イ 「青い目の人形」を見る資料展（7月2日～10月6日）

近隣の小学校に現存する青い目の人形3体を中央に配置し、当館所蔵の地元新聞資料を中心に県内小学校の記念誌、市史、町村史、児童書などを展示した。

昭和の初期、アメリカから日本に贈られた青い目の人形たちは日米の子どもたちの心を結ぶ“親善使節”であったが、その時代背景には日米関係の悪化がある。

当時の地元新聞などが、人形に込められた友情や交流への願いをどのように伝えたか。また、戦争という状況

下で人々の心がいかに変わっていたかということを、子どもたちも考える展示とした。

期間中には、博物館学芸員による「日米人形交流史 昭和2年の青い目の人形と答礼人形」と題する連携講座を行なった。(9月11日 当館第一研修室)

ウ「ふくしまの名著展～先人たちが遺した活字の世界」
(10月8日～1月5日)

『ふくしまの名著』として福島県文化センターの広報誌に連載、紹介した出版物の中から藩史・地誌・文芸作品を中心に展示を行い、併せて『展示資料一覧および解説』を作成し来館者・関係機関へ配布した。

また、関連事業として『ふくしまの名著』執筆者・菅野俊之氏（元福島県立図書館総括司書）による講演会「ふくしまの名著を語る」を開催した。

エ「赤羽末吉展～昔話絵本の魅力」(1月7日～4月6日)

「国際アンデルセン賞・画家賞」を受賞した日本を代表する絵本作家赤羽末吉についての展示を行った。

福島県をはじめ東北各地を取材して描いたという『かさじぞう』『つるにようぼう』などの昔話絵本を中心に紹介。また、50歳を過ぎて絵本画家としてデビューした赤羽氏の昔話絵本制作に寄せた熱き思いを伝える資料や取材時のスケッチなどの資料を展示了。さらに、昔話絵本に関する研究書なども紹介した。

期間中に、昔話をテーマにした「ふゆのおはなしかい」を開催した。

(2) ロビー展示

情報発信活動の一環として、作品発表の場を提供する県民参加型の企画。広報のためチラシを作成し募集を行った。

ア「花見山～ふくしま四季俱楽部写真展②」4月2日～5月5日
内容：ふくしま花案内人仲間による花見山の写真展

イ「第1回えがく会展」5月7日～6月2日
内容：ヨークカルチャー福島日曜油絵の会による作品展

ウ「F T Vカルチャーセンター写真講座作品展」6月4日～6月30日
内容：デジタル写真講座受講生による作品展

関連講座：「ゼロから一眼レフ」初心者デジタルカメラ
体験講習会 6月27日

エ「色々な字体と作品展2」7月2日～8月4日
内容：村上書道教室の生徒による作品展

オ「水彩画と絵手紙展」8月6日～9月1日
内容：「かたくりの花の仲間会」による作品展

カ「第2回網代澄亭と一門による刻字展」9月3日～10月6日
内容：刻字作品展

関連講座：講習会「刻字をやってみませんか」9月12日

キ「押し花合同作品展～この花咲くや時空(とき)を越えて～」10月8日～11月3日

内容：額装された押し花の作品展

ク「動物～マーブル・Style展～」11月5日～12月1日

内容：羊毛フェルト人形とパステル画作品展

ケ「福島信夫ライオンズクラブ 平和ポスターコンテスト」

12月3日～1月5日

内容：小学生による平和ポスター応募画作品展

コ「さとう静岳手作り書道アート展 1月7日～2月2日

内容：条幅漢字を中心とした作品展

サ「被害者に優しい「ふくしまの風」運動パネル展」2月25

日～3月11日（※4月6日までの予定が震災のため休止）

内容：被害者遺族の手記・メッセージ、遺品等の写真

や被害者支援センターの活動紹介パネル展

（※関連講座も震災のため中止）

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」

図書館未設置町村の、図書館活動の促進を図ることを目的として、資料の援助や公民館図書室の運営相談を行った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

平成22年度移動図書館「あづま号」利用状況

地 区	延べ 日数	対象市 町村数	貸出冊数
県 北	8	3	2,295
県 中	4	3	3,502
県 南	5	3	3,982
会 津	17	11	12,111
南会津	7	4	4,150
相 双	6	5	5,272
合 計	47	29	31,312

2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、図書館・公民館図書室の活性化を図った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,400冊
川俣町教育委員会	713冊
鮫川村教育委員会	481冊
只見町教育委員会	485冊
西郷村教育委員会	719冊
南会津町教育委員会	500冊
平田村教育委員会	500冊
泉崎村教育委員会	3,299冊
伊達市教育委員会	907冊
中島村教育委員会	170冊
西会津町教育委員会	340冊
合 計	10,514冊

3 福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の強化、充実の援助を行った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

猪苗代町教育委員会	488冊
湯川村教育委員会	300冊
只見町教育委員会	316冊
会津若松市教育委員会	300冊
平田村教育委員会	200冊
合 計	1,604冊

4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校（県立盲学校を除く）の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、学校図書館の活性化を図った。

本年度の利用状況は次のとおりである。

県立いわき総合高等学校	326冊
県立郡山萌世高等学校	200冊
県立石川高等学校	227冊
県立須賀川高等学校	93冊
県立須賀川養護学校	279冊
福島成蹊高等学校	100冊
県立喜多方桐桜高等学校	39冊
合 計	1,264冊

5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114タイトル（延べ269セット）を編成し貸出を行った。

本年度の利用状況は、40団体（延べ51件）に対し86セット（3,130冊）を貸し出した。

6 読書会用文庫

生涯学習時代を迎える、図書館・公民館及び学校活動の一環として、各地で読書会が活動している。

当館ではそれら読書会用として幅広くテキストを備え援助を行った。本年度の利用はなかった。

7 広報資料の発行

(1) 館報「あづま」

第61巻（通巻第265号）を発行し、市町村教育委員会、図書館、公民館等に配布した。

発行部数 1,700部

(2) 平成22年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

県内公共図書館・公民館図書室の実態を把握し、図書

館活動の振興に資するため、昭和54年度から毎年実施し、報告書にまとめ、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うと共に、県立図書館ホームページに掲載した。

平成22年4月1日現在の主要な結果をあげると、市町村図書館と公民館図書室を合わせた蔵書冊数は5,882,203冊で、県民1人当たり2.89冊（前年度2.84冊）、年間増加冊数は278,154冊である。

また、21年度中の貸出図書冊数は、7,615,418冊（県民1人当たり3.74冊）であり、前年度と比べると総冊数では、811,185冊の増である。

(3) 福島県郷土資料情報

当館の地域資料で所蔵する貴重資料や福島の児童文学者などを紹介した第51号を発行し、県内の図書館や類縁機関へ配布した。

発行部数 240部

第5節 図書館協力

1 相互協力と遠隔地返却

相互貸借の資料発送を週2回から週1回に変更したためか件数の減少は見られたが、システム加盟館からのWEB上からの簡易な申し込み方法により相互貸借冊数は増加傾向にある。

遠隔地返却冊数については、県内公共図書館に加え公民館、さらに福島大学図書館との連携により返却できる箇所が増え利用促進につながった。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,102	5,736	506	783	1,608	6,519
借用	127	169	107	135	234	304
小計	1,229	5,905	613	918	1,842	6,823

相互貸借状況・推移

（単位：冊）

平成20年度	平成21年度	平成22年度
8,179	8,746	6,823

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）

（単位：冊）

平成20年度	平成21年度	平成22年度
4,587	5,861	6,794

2 県内図書館職員研修会

図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

ア テーマ 「図書館サービスの基本について」等
イ 期 日 平成22年5月26日
ウ 会 場 県立図書館
エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員
等 48名
オ 講 師 県立図書館職員

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

ア テーマ 「図書館に求められる書評と解題の技術～
本を紹介することから考える図書館サービス」
イ 期 日 平成22年12月8日
ウ 会 場 県立図書館
エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員
等 66名
オ 講 師 青山学院大学 教授 小田 光宏 氏

(3) 子ども読書活動事例研修会

地域で子どもの読書活動を推進している関係者を対象に実施。人材の育成とスキルアップに取り組んだ他、学校・家庭における取り組みへの働きかけを行った。

ア 期 日 平成22年9月2日
イ 会 場 県立図書館
ウ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員
・図書館ボランティア等 118名
オ 講 師 県立図書館職員

3 県内大学図書館間相互利用制度

県内の大学図書館と公共図書館との協力体制として「福島県内大学図書館間相互利用制度」があり、その制度の主な柱は、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」である。

この制度利用参加市町村立図書館は、県立図書館を含め福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館の20館である。